

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671600272		
法人名	社会福祉法人 白寿会		
事業所名	グループホーム御所		
所在地	徳島県阿波市土成町宮川内字神田133番地1		
自己評価作成日	平成25年6月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成25年7月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、自然に囲まれており、四季を肌で感じる事が出来、地域の方々にも暖かく接していただいている。職員は利用者一人一人に寄り添ったケアを心掛け、利用者や職員は毎日笑顔にあふれ穏かであり、家庭的な雰囲気有している。又、利用者様の状態把握に努めており、異変時の早期発見と迅速な対応に努めている。四国八十八ヶ所のお遍路沿いに事業所がある為、お接待を常に行えるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、豊かな自然に囲まれており四季折々の景色を眺めることができる。敷地内に同一法人の運営する他サービス事業所が多数あり、相互に協力しあって利用者の支援に取り組んでいる。事業所の生活空間はゆったりとした雰囲気がある。職員は、利用者の姿をどの視野からも見守ることができ、安心で安全な暮らしを支援している。地域の中・高等学校の研修生の受け入れや地域協力員との交流も盛んに行っている。職員は、保健センターに出向き、地域住民へ安全な車いすの取り扱い方や衣類の着脱方法等の講習を行うなどして、事業所の有する専門機能の発揮と地域貢献に取り組んでいる。また、介護相談を受けるなど、地域の介護に関する拠点として機能している。事業所は、四国八十八ヶ所のお遍路道に沿っていることなどもあり、事業所の立て札を見た方達の来訪があったときには、利用者とともにお接待をしつつ、和やかな時間を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えた独自の理念であり、常に認識出来るようホーム内に掲示を行い、職員は共有し実践に活かしている。	全職員で話しあい、事業所独自の理念を作成している。日ごろから、職員間で理念の共有化を図り、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域協力員の来訪や保育センターとの交流、又、地域で行なわれている清掃活動への参加など、地域とのつながりを大切に、出来るだけ参加するようにしている。	地域協力員による朗読会や大正琴の演奏は、利用者の楽しみとなっている。保育センターとの交流や中・高等学校の研修生の受け入れを行っている。また、地域との繋がりを大切に捉え、地域で行われる清掃活動へ参加するなどして双方向的な交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に介護方法や認知症の理解をして頂く為に講習会などで講師を勤めさせてもらった事もある。中高生の職場体験を積極的に受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や日頃の取り組みを報告したり抱えている問題等を伝えアドバイスを頂いたりしている。意見や要望は職員へ伝達し、レベルアップに繋げている。	運営推進会議では、利用者の状況や日ごろの事業所の取り組みなどを報告したり、様々なことについて話しあったりしている。参加者から出された意見や要望をサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市とは常に連携を図り相互に情報交換を行うようにしている。又、毎月ホーム便りを送付したり、疑問に思う事があれば教えていただいている。	日ごろから、市担当者と連携を図って相互に情報交換を行っている。毎月、事業所便りを送付して、事業所の取り組みや実情を積極的に伝え、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束で起こりうる弊害を理解し、拘束は行なわないケアを実践している。	管理者と職員は、身体拘束の内容とその弊害について理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の無いケアを心掛け各種研修会に参加し虐待防止の重要性を認識してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用している方がいる為、管理者や職員は必要性は十分に理解している。身元引受人からの相談があれば申請方法をアドバイスさせていただいているが活用を勧めるまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には十分説明を行い納得していただいた上で同意してもらっている。大きく改定がある際は家族会を開くなどし説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は大切にし常に傾聴する姿勢を持っている。外部に苦情相談窓口がある事を認識して頂く為に重要事項説明書に明示したり、ホーム内にも掲示を行なっている。	日ごろから、職員は、利用者や家族との関わりのなかで、意見や要望を言いやすい雰囲気づくりに留意している。少なくとも年一回は家族会を開催し、出された意見や要望について管理者や職員間で話しあって運営面へ反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや勉強会等で意見を聞くようにしている。管理者は現場に入り職員とのコミュニケーションを図り、意見の出やすい雰囲気作り心掛けていく。	管理者は、毎朝のミーティングや勉強会等の機会に、職員が意見や提案を出しやすいような雰囲気づくりに留意している。年一回、代表者との個別面談の機会を設けている。また、就業環境の整備等を行い、働きやすい職場環境の構築に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	柔軟な対応を行なってくれている。又一人一人の個性を大事にし努力や功績に応じ賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には積極的に参加し、ホーム内でも毎月担当を決め勉強会に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にグループホームがある為、情報の共有や交流を図っている。又、老施協加入のグループホームとの研修や交流もありサービス向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に生活状況を知り、安心した生活が送れるよう両者が行き来するなどし、信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や家庭での状況をよく聞き把握に努め、家族が安心されるようなアドバイスが出来るよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今何を必要としているのかを見極め幅広い視野から希望に沿ったサービスや今後必要となるサービスを他職種を交え考え、提供できるよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が共に助け合い協力し合っ、日々明るく楽しく生活出来るよう家族のような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から家族に利用者の様子をこまめに伝えるようにしている。家族と共に利用者支援するよう関係を築き協力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の希望に沿い外出援助を行ったり、デイサービスへ友人が来られている時は行き来し関係を保つようにしている。	事業所では、利用者の行きつけの美容院や他サービス事業所を利用する友人との面会、自治会への参加等の支援を行っている。本人がこれまで大切にしてきた馴染みの関係や社会との繋がりが途切れることのないよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は自分が出来る事で他の方に手助けをしたりと関わりを持ち無意識の内に支え合っている。職員は十分に関係把握をし支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も状態を気にかけて、家族から状態を伺ったり、状態に応じ入所できる施設などの相談に乗っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を理解する為にも話には耳を傾け表情や行動にも気をつけ声掛けを行っている。様々な方向から利用者の事を考え検討するようにしている。	職員は、日ごろの利用者との暮らしのなかで、一人ひとりの話に耳を傾け、表情や行動等から思いや希望の把握に努めている。職員間で意見を出しあって相互のケアを振り返り、支援へと繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら家族や関係者に協力を求め情報収集に努めている。情報収集の困難な方は生活している中で接したり会話をする中で見出すようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムやペースを大事にしケアを行なっている。毎日の生活の中から現状を把握し、職員全員が認識出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの意見や要望も踏まえ介護計画を作成している。介護計画は本人又は家族へ説明し署名・捺印を頂いている。	利用者や家族から出された意見や要望をふまえたうえで、担当職員と看護師、計画作成担当者等で話しあい介護計画を作成している。利用者一人ひとりの状況に応じ、そのつど計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、日々の様子・特記事項などを記録している。ちょっとした気付きも記録し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化や、本人・家族の要望に応じた対応を行なっている。状況に合わせた柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育センターとの交流や学生ボランティアの受け入れなどを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を絶つことなく適切な医療が受けられるよう支援している。家族や主治医・訪問看護との連携を密にし、協力し合って支援している。	事業所では、利用者や家族の希望を大切に捉え、適切な医療の受診に向け支援している。主治医や訪問看護との協力関係を構築し、連携を図ったうえで支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職や訪問看護により、日常の健康管理を行なっている。介護職も状態変化や異常に留意し、早期発見に努めており症状に応じた医療機関への受診を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院を目指し担当医師・看護職・ケアワーカー・家族との情報交換をこまめに行うようにしている。退院後のケアがスムーズにおこなえるよう情報は職員全員に伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を作成している。医療機関や訪問看護と連携し重度化対応や終末期支援を行う事が出来る体制が整っている。	事業所では、重度化対応指針を作成している。利用者や家族が安心して納得した支援を受けられることができるよう、医療機関や訪問看護と連携し、チームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルや個々の既往ファイルを作成し、職員で共有している。又、広域連合の協力を得、救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回併設施設と合同で日中、夜間想定避難訓練を実施、又、地域消防団との協力体制が図られている。ホーム内には非常食の備蓄を行なっている。	災害対策マニュアルを作成している。年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を、同一法人の運営する併設事業所と合同で実施している。また、地域の消防団との協力体制を強化したり、運営推進会議で地域住民へ協力も呼びかけたりしている。非常時に備え、事業所内に食料を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りを損なわない声掛けや、介護に細心の注意を払っている。記録も適切に保管を行い個人情報保護に努めている。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損なうことのないような言葉かけに留意している。機会あるごとに職員間で話しあい、相互に確認しあっている。個人情報については、責任のある取り扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた声掛けを行なっている。意思表示の困難な方は多く関わりを持ち表情や行動から希望を汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大事にし支援を行っている。無理強いせず望まれるような暮らしを支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を尊重し外出や行事の際にはおしゃれが楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、食事準備や片付け等を共に行なっている。利用者に嗜好調査を行い意見を献立に反映させている。	利用者を対象に、献立に関するアンケートを実施し、管理栄養士が献立を作成するときに希望を反映している。利用者の力量に応じて、食事の準備や後片づけなどの役割を担ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに気をつけ献立を考えている。利用者一人一人の健康状態や疾患に応じ、食事・水分量を変える等対応している。又、咀嚼・嚥下状態にも配慮し調理方法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを行なうように声掛けしている。ケアが困難な方には支援を行っている。月2度歯科診療日があり、歯科衛生士からの口腔ケアに関するアドバイスをいただく事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄習慣やパターンを把握し、誘導や声掛けを行いトイレ又は、ホールでの排泄を支援している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄習慣やパターンの把握に努めている。利用者一人ひとりの排泄サインを見逃すことのないよう留意し、さりげない誘導や声かけを行うことで、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をこまめに行ったり、身体を動かしたり、便秘解消のマッサージを取り入れたりする事で自然排便を促すように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望を尊重しゆっくりと入浴できるよう時間には余裕を持たしている。職員と1対1での入浴を行っている。	利用者の希望に応じて、くつろいだ気分で入浴することができるよう支援している。体調によっては、シャワー浴や足浴で対応を行うなど、一人ひとりの状態や意向にそった入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	随所にソファを設置したり、畳スペースがあり家庭的な雰囲気の中で、くつろげれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に服薬一覧ファイルを作成し職員が閲覧しやすい場所に保管している。誤薬を防ぐ為に名前等の確認を毎食事行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の得意分野を見つけ自信を高められるような声掛けや支援を行なっている。趣味として塗り絵や折り紙を行い楽しく生活を送っている方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調により散歩などの外出支援を行なっている。月1回程度は全体で外出できるような企画を考え戸外に出かけられるように努めている。	利用者は、天候や体調の良い日には、前庭のベンチで日光浴や散歩を楽しんだり、行きつけの美容院へ出かけたたりしている。自治会の会合に同行し、知人との交流を楽しむ利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時には自ら支払いを行なってもらったり、使用しなくても金銭を持つ事で安心感を得ている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠く離れた家族や親類の安否を気遣い電話をかけたいと希望があれば通話の支援を行なったり、毎月送付している便りにも自らコメントを記入する方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり季節感を味わってもらえるよう、雛人形・五月人形・七夕飾り・クリスマスツリー等を飾っている。利用者にとって不快と思われる音や臭いは出さないように努めている。	共用空間は広く、ゆったりとしている。職員は、どこからでも利用者の姿を見守ることができ、安心安全な環境整備に配慮している。事業所内には、季節の生け花や七夕飾りを行い、家庭的な雰囲気を感じることもできる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳コーナーを設けており外にはベンチも設置している。一人で過ごしたり、気の合う方同士で安心して過ごせれるような共有空間の整備、提供に心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族と話し合い使い慣れた家具を持参してもらったり、馴染みの物を活かし以前と変わらない居心地の良い生活が送れるよう配慮している。	利用者や家族と話しあい、使い慣れた家具やタンスを持ち込んでもらっている。居室には、家族の写真や俳句を飾るなど、居心地良く暮らすことのできる工夫を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に絨毯を敷き詰めたり、手すりを設置したりと利用者一人一人が安全に暮らす事の出来るように配慮している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			和	和	和
			実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えた独自の理念であり、常に認識出来るようホーム内に掲示を行い、職員は共有し実践に活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域協力員の来訪や保育センターとの交流、又、地域で行なわれている清掃活動への参加など、地域とのつながりを大切に、出来るだけ参加するようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に介護方法や認知症の理解をして頂く為に講習会などで講師を勤めさせてもらった事もある。中高生の職場体験を積極的に受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や日頃の取り組みを報告したり、抱えている問題等を伝えアドバイスを頂いたりしている。意見や要望は職員へ伝達し、レベルアップに繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市とは常に連携を図り相互に情報交換を行うようにしている。又、毎月ホーム便りを送付したり、疑問に思う事があれば教えていただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束で起こりうる弊害を理解し、拘束は行なわないケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の無いケアを心掛け各種研修会に参加し虐待防止の重要性を認識してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			和 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用している方がいる為、管理者や職員は必要性は十分に理解している。身元引受人からの相談があれば申請方法をアドバイスさせていただいているが活用を勧めるまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には十分説明を行い納得していただいた上で同意してもらっている。大きく改定がある際は家族会を開くなどし説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は大切にし常に傾聴する姿勢を持っている。外部に苦情相談窓口がある事を認識して頂く為に重要事項説明書に明示したり、ホーム内にも掲示を行なっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや勉強会等で意見を聞くようにしている。管理者は現場に入り職員とのコミュニケーションを図り、意見の出やすい雰囲気作り心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	柔軟な対応を行なってくれている。又一人一人の個性を大事にし努力や功績に応じ賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には積極的に参加し、ホーム内でも毎月担当者を決め勉強会に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にグループホームがある為、情報の共有や交流を図っている。又、老施協加入のグループホームとの研修や交流もありサービス向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	和	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に生活状況を知り、安心した生活が送れるよう両者が行き来するなどし、信頼関係を築くよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や家庭での状況をよく聞き把握に努め、家族が安心されるようなアドバイスが出来るよう心掛けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今何を必要としているのかを見極め幅広い視野から希望に沿ったサービスや今後必要となるサービスを他職種を交え考え、提供できるよう取り組んでいる。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が共に助け合い協力し合っ て、日々明るく楽しく生活出来るよう家族 のような関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から家族に利用者の様子をこまめに 伝えるようにしている。家族と共に利用者 を支援するよう関係を築き協力している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の希望に沿い外出援助を行 なったり、デイサービスへ友人が来られて いる時は行き来し関係を保つようしている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は自分が出来る事で他の方に手助 けをしたりと関わりを持ち無意識の内に支 合っている。職員は十分に関係把握をし支 援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	和	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も状態を気にかけて、家族から状態を伺ったり、状態に応じ入所できる施設などの相談に乗っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を理解する為にも話には耳を傾け表情や行動にも気をつけ声掛けを行っている。様々な方向から利用者の事を考え検討するようにしている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら家族や関係者に協力を求め情報収集に努めている。情報収集の困難な方は生活している中で接したり会話をすることで見出すようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムやペースを大事にしケアを行なっている。毎日の生活の中から現状を把握し、職員全員が認識出来るように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの意見や要望も踏まえ介護計画を作成している。介護計画は本人又は家族へ説明し署名・捺印を頂いている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、日々の様子・特記事項などを記録している。ちょっとした気づきも記録し情報の共有に努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化や、本人・家族の要望に応じた対応を行なっている。状況に合わせた柔軟な支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			和 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育センターとの交流や学生ボランティアの受け入れなどを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を絶つことなく適切な医療が受けれるよう支援している。家族や主治医・訪問看護との連携を密にし、協力し合って支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職や訪問看護により、日常の健康管理を行なっている。介護職も状態変化や異常に留意し、早期発見に努めており症状に応じた医療機関への受診を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院を目指し担当医師・看護職・ケアワーカー・家族との情報交換をこまめに行うようにしている。退院後のケアがスムーズにおこなえるよう情報は職員全員に伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を作成している。医療機関や訪問看護と連携し重度化対応や終末期支援を行う事が出来る体制が整っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルや個々の既往ファイルを作成し、職員で共有している。又、広域連合の協力を得、救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回併設施設と合同で日中、夜間想定避難訓練を実施、又、地域消防団との協力体制が図られている。ホーム内には非常食の備蓄を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	和	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りを損なわない声掛けや、介護に細心の注意を払っている。記録も適切に保管を行い個人情報保護に努めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた声掛けを行なっている。意思表示の困難な方は多く関わりを持ち表情や行動から希望を汲み取るようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大事にし支援を行っている。無理強いせず望まれるような暮らしを支援するように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を尊重し外出や行事の際にはおしゃれが楽しめるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、食事準備や片付け等を共に行なっている。利用者に嗜好調査を行い意見を献立に反映させている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに気をつけ献立を考えている。利用者一人一人の健康状態や疾患に並び、食事・水分量を変える等対応している。又、咀嚼・嚥下状態にも配慮し調理方法を工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを行なうように声掛けしている。ケアが困難な方には支援を行っている。月2度歯科診療日があり、歯科衛生士からの口腔ケアに関するアドバイスをいただく事もある。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			和	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄習慣やパターンを把握し、誘導や声掛けを行いトイレ又は、ポータブルでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をこまめに行ったり、身体を動かしたり、便秘解消のマッサージを取り入れたりする事で自然排便を促すように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望を尊重しゆっくりと入浴できるような時間には余裕を持たしている。職員と1対1での入浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	随所にソファを設置したり、畳スペースがあり家庭的な雰囲気の中で、くつろげれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に服薬一覧ファイルを作成し職員が閲覧しやすい場所に保管している。誤薬を防ぐ為に名前等の確認を毎食事行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の得意分野を見つけ自信を高められるような声掛けや支援を行なっている。趣味として塗り絵や折り紙を行い楽しく生活を送っている方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調により散歩などの外出支援を行なっている。月1回程度は全体で外出できるような企画を考え戸外に出かけられるように努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	和	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		買い物時には自ら支払いを行なってもらったり、使用しなくても金銭を持つ事で安心感を得ている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		遠く離れた家族や親類の安否を気遣い電話をかけたいと希望があれば通話の支援を行なったり、毎月送付している便りにも自らコメントを記入する方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		季節の花を生けたり季節感を味わってもらえるよう、雛人形・五月人形・七夕飾り・クリスマスツリー等を飾っている。利用者にとって不快と思われる音や臭いは出さないように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		ソファや畳コーナーを設けており外にはベンチも設置している。一人で過ごしたり、気の合う方同士で安心して過ごせるような共有空間の整備、提供に心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		利用者、家族と話し合い使い慣れた家具を持参してもらったり、馴染みの物を活かし以前と変わらない居心地の良い生活が送れるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		居室に絨毯を敷き詰めたり、手すりを設置したりと利用者一人一人が安全に暮らす事の出来るように配慮している。		